

平城宮跡歴史公園  
朱雀大路東側地区(歴史体験学習館)  
整備計画

---

奈良県県土マネジメント部 地域デザイン推進局 平城宮跡事業推進室

令和2年12月

## はじめに

平城宮跡歴史公園朱雀大路東側地区（歴史体験学習館）整備計画（以下「整備計画」という。）は、平成20年に策定された「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園平城宮跡区域基本計画」（以下「公園基本計画」という。）に基づき、平城宮跡の利用の拠点となる、朱雀門の南側（以下「拠点ゾーン」という。）の「歴史体験学習館」について、検討を進めてきた成果を取りまとめたものです。

「整備計画」の作成にあたっては、「公園基本計画」に定められている「奈良全体にかかる歴史・文化情報の発信や交流の会場となる施設」の位置付けをふまえるとともに、平成25年に策定された「平城宮跡歴史公園拠点ゾーン整備計画」（以下「拠点ゾーン整備計画」という。）を参考とし、平城宮跡の持つ歴史性、来訪者の快適性、既存施設との連携に配慮した施設配置、平城宮跡歴史公園の正面玄関としてふさわしい景観形成等について、有識者に幅広い見地から意見を伺いました。

また、パブリックコメント（意見募集）を行い、広くいただいたご意見を参考とし、「整備計画」として取りまとめました。

令和2年12月

奈良県県土マネジメント部 地域デザイン推進局 平城宮跡事業推進室

# 目 次

1. 平城宮跡歴史公園とは	1
2. 平城宮跡歴史公園 計画の概要	2
(1) 計画の経緯	2
(2) 公園基本計画（平成 20 年 12 月策定）	3
(3) 拠点ゾーン整備計画（平成 25 年 12 月策定）	5
3. 歴史体験学習館の整備計画	6
(1) 整備方針	6
(2) 基本的な考え方	7
(3) 施設の計画概要	9
(4) 景観形成の考え方	12
(5) 埋蔵文化財の保護	14
(6) 平面計画	15
(7) 整備イメージ	16
(8) スケジュール、概算事業費	17

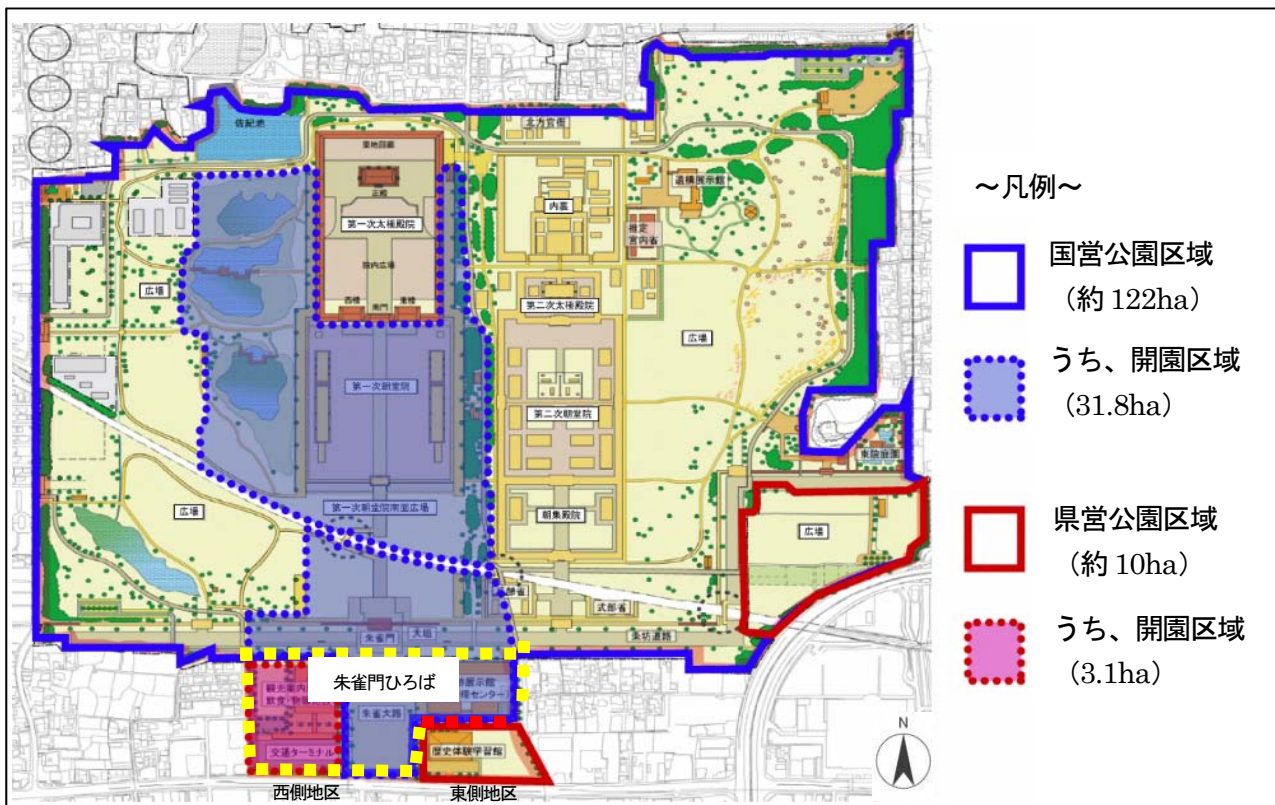
## 1. 平城宮跡歴史公園とは

「平城宮跡」は、日本の律令国家が形成された奈良時代の政治・文化の中心として、多くの重要な遺構が確認されており、学術上きわめて価値の高い文化財として、昭和26年度には特別史跡に指定され、平成10年度には世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産の一つとして登録されています。

平城宮跡歴史公園は、我が国を代表する歴史・文化資産である「平城宮跡」の一層の保存・活用を図る目的で、平成20年10月の閣議決定により、国営公園として整備を行うことが決定されました。

平城宮跡歴史公園では、国土交通省が平成20年12月に策定した「公園基本計画」に基づき、国営公園区域と県営公園区域の一体的な公園整備を行っています。

国営公園としての全体開園に先立ち、平成30年3月24日には、朱雀大路を中心に整備した「朱雀門ひろば」を開園し、平城宮跡の正面玄関及び奈良観光の玄関口となるよう公園機能の充実を図っているところです。

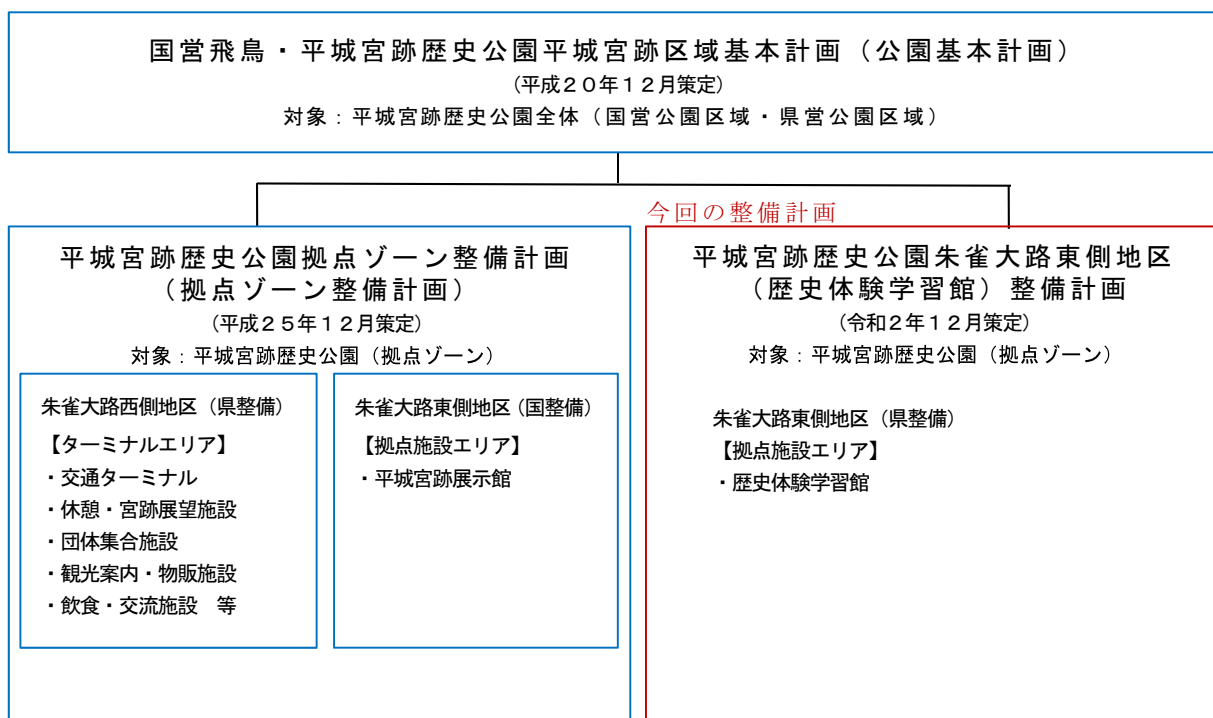


図：平城宮跡歴史公園 平面図

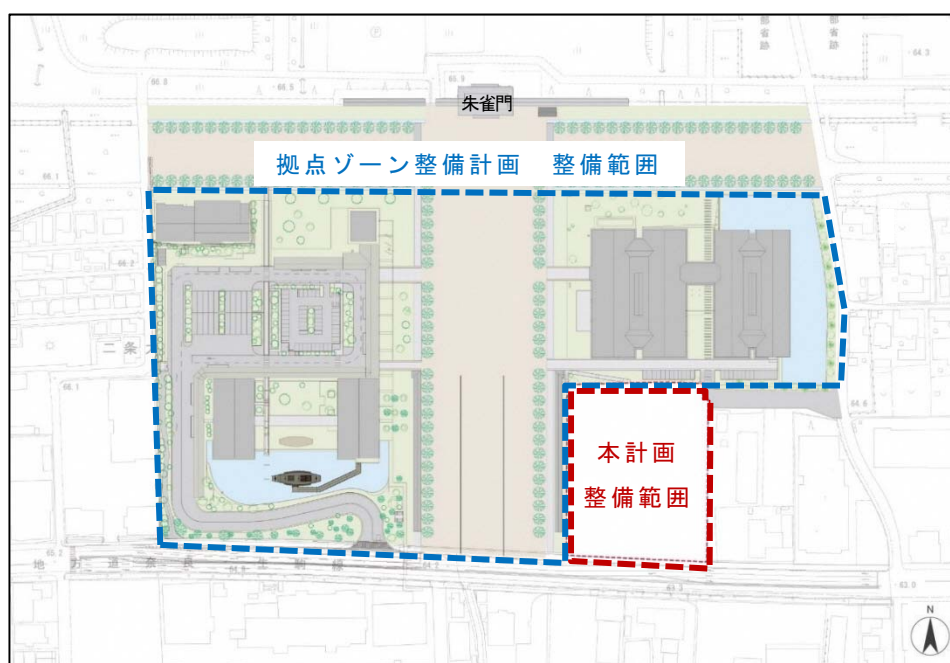
## 2. 平城宮跡歴史公園 計画の概要

### (1) 計画の経緯

整備計画は平成20年に策定された「公園基本計画」に基づき検討を行っています。また、今回の整備計画と同じ「公園基本計画」の拠点ゾーンにおいて、平成25年に「拠点ゾーン整備計画」を策定し、施設の整備が行われました。今回の整備計画の整備範囲と「拠点ゾーン整備計画」での整備範囲を下図に示します。



図：歴史体験学習館の整備計画の位置付け



図：拠点ゾーン整備計画の整備範囲と本計画の整備範囲

## (2) 公園基本計画（平成20年12月策定）

公園基本計画では、文化庁が策定した「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想（昭和53年）」や、「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想推進計画（平成20年）」の内容をふまえ、基本理念と基本方針を設定しています。

### ● 基本理念（目指すべき公園の姿・あり方）

古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、平城宮跡の保存と活用を通じて、“奈良時代を今に感じる”空間を創出する

### ● 基本方針（基本理念を満たす公園を実現するための方針）の要旨

#### ① 特別史跡・世界遺産である歴史・文化資産としての適切な保存・活用

平城宮跡が、国の特別史跡として指定され、世界遺産として登録された「古都奈良の文化財」の構成資産であることを尊重し、貴重な歴史・文化資産として確実に保存し、良好な状態で後世に伝える。

#### ② 古代国家の歴史・文化の体感・体験

遺跡の公開や空間スケールを活かした遺跡の表現、平城宮跡周辺の古都奈良の歴史的・文化的景観と併せ、往時に思いを馳せることのできる景観の形成を図る。また、興味をかき立てるわかりやすい解説や多彩なイベントを実施する。

#### ③ 古都奈良の歴史・文化を知る拠点づくり

古都奈良の歴史・文化を伝える情報発信のセンターとなるとともに、歴史・文化等を通じた国際交流の拠点としての活用を図る。

#### ④ 国営公園として利活用性の高い空間形成

快適な空間づくりときめ細やかなサービスの提供。併せて、地域住民・NPOをはじめとした多様な主体が整備、管理・運営に参画し、公園に集う人全てで作り、育む公園とする。

### \*\*\* 拠点ゾーンにおける利用・整備方針と主要施設 \*\*\*

～ 公園基本計画〈抜粋〉～

#### ⑪ 拠点施設エリア

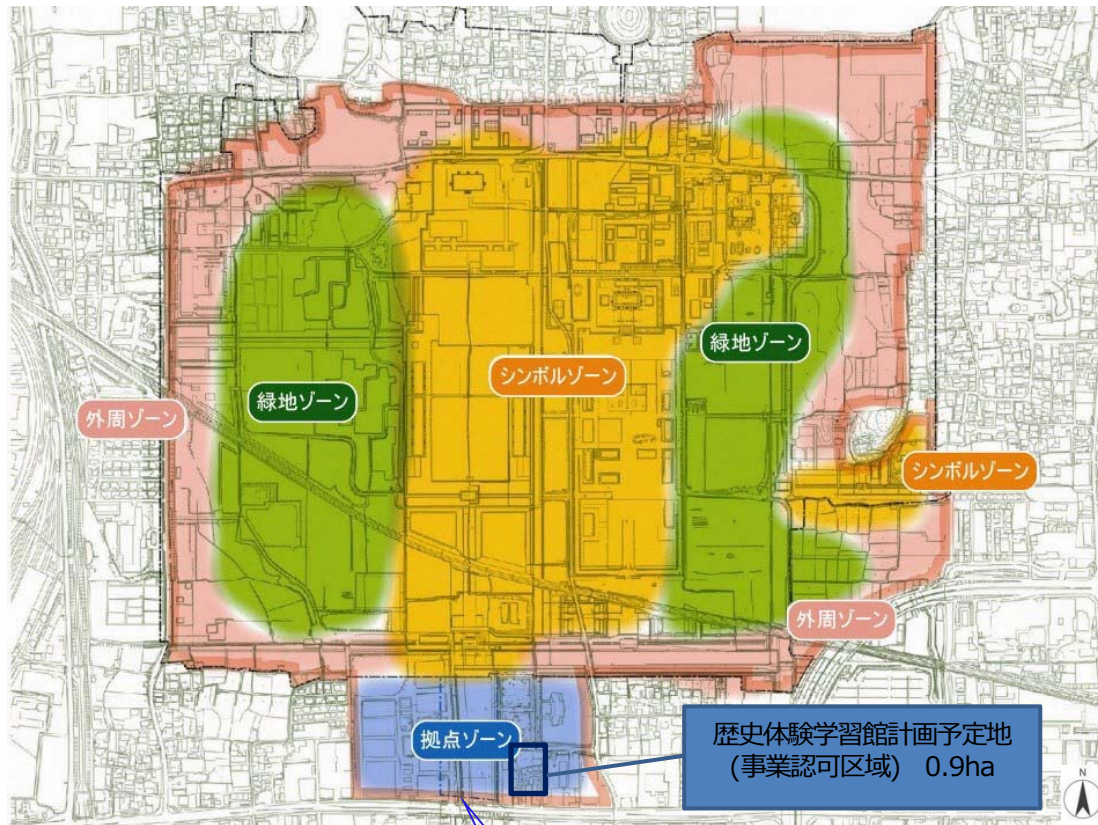
本公園の正面玄関として、園内の案内・利用情報の提供に併せ、平城宮跡に対する知識と理解を深めるためのガイダンス、出土品の展示等を行う施設を設けるとともに、その拠点性、利便性を活かし、奈良全体の歴史・文化にかかる情報発信や交流の拠点となる施設を設けるエリアとする。

##### 【主要施設】

- 平城宮跡展示館  
平城宮跡の出土品や資料の展示、宮跡全体のガイダンスを行う施設
- 公園管理センター  
公園の総合的な利用案内サービスの提供や管理運営の拠点となる施設
- 歴史体験学習館  
奈良全体にかかる歴史・文化情報の発信や交流の会場となる施設  
※奈良県を中心とした地元による整備を想定

## 平城宮跡歴史公園のゾーニング

公園基本計画では、貴重な歴史・文化資産の確実な保存を前提として、公園の果たすべき役割・導入すべき機能をふまえて、公園区域を4つにゾーニングしています。



### ○ シンボルゾーン

復原された建物等を中心とする歴史資産を最大限に活用した空間づくりを行い、往時の平城宮の様子が感じられるゾーン。

### ○ 拠点ゾーン

平城宮跡の正面玄関及び奈良観光の玄関口として、公園全体の利用、管理・運営の拠点及び歴史・文化交流拠点並びに観光ネットワーク拠点の機能を持ったゾーン。

**※今回対象の歴史体験学習館は拠点ゾーン内の拠点施設エリア内に位置付けられています**

### ○ 緑地ゾーン

宮跡全体の広がりや周辺地域との歴史的な関わりを感じるとともに多目的に利用できる緑地を主体としたゾーン。

### ○ 外周ゾーン

宮跡と隣接市街地との間に緑陰を設けるとともに、エントランスや公園利用に必要な利用サービス施設を宮跡内部からの景観に配慮しつつ配置するゾーン。

### (3) 拠点ゾーン整備計画（平成 25 年 12 月策定）

拠点ゾーン整備計画では、公園基本計画で設定した拠点ゾーンの内、今回の整備計画の整備範囲を除く範囲について、整備コンセプト、拠点ゾーンの景観形成の考え方と基本方針を整理しています。

#### 拠点ゾーンの整備コンセプト

平城宮跡の正面玄関としてふさわしい、往時の平城京のスケールを感じさせる広がりのある空間づくりを目指します

- ① 往時の平城宮・平城京の姿を知り、“奈良時代を今に感じる”空間とします。
- ② 来訪者が平城宮跡に期待感や余韻を感じ、楽しみながら快適に過ごせる施設配置とします。

#### 景観形成の考え方と基本方針

拠点ゾーンでは「平城宮跡の正面玄関としてふさわしい、往時の平城京のスケールを感じさせる広がりのある空間づくり」という整備コンセプトから、「理解」「想起」「体感」を軸に景観形成を行います。

以上の「景観形成の考え方」をふまえ、拠点ゾーンにおける3つの基本方針を以下のとおり設定しています。



#### ■ 往時の空間や歴史的背景が感じられる場を創出します。

- 朱雀大路からの眺望を確保し、広がりを感じられる景観を形成します。
- 往時の条坊道路などの地割を意識するとともに、往時の空間スケールが感じられるような景観を形成します。
- 奈良時代の歴史的背景を知るきっかけとなるような工夫を行います。

#### ■ 平城宮跡歴史公園の正面玄関として、品格やにぎわいを醸成します。

- 平城宮跡歴史公園の正面玄関として、品格が感じられる景観を形成します。
- 人々の活動が建物内外に広がり、一体としてにぎわいが感じられる景観を形成します。

#### ■ 復原建物と現代の施設との差別化を図りつつ、全体として調和のとれた空間をめざします。

- 平城宮跡での発掘調査や研究の成果に基づく「復原建物」や「遺構表示」を主役として、これらを引き立てるような配慮を行います。
- 復原建物等と差別化を図りながらも、平城宮跡の景観と調和するような、落ち着いた感じられる空間とします。
- 公園周辺環境との調和を図ります。



### 3. 歴史体験学習館の整備計画

#### (1) 整備方針

上位計画における「奈良全体にかかる歴史・文化情報の発信や交流の会場となる施設」としての位置付け及び平城宮跡歴史公園内の既存施設との相互利用により平城宮跡歴史公園の魅力が高められるよう、歴史体験学習館は、歴史・文化の“体験（情報発信）”と“交流”の機能を担う施設とし、整備コンセプトと整備基本方針を以下のように設定します。

#### 歴史体験学習館の整備コンセプト

“奈良時代を今に感じる” 歴史・文化体験と交流の舞台

#### 歴史体験学習館の整備基本方針

- 平城京の成り立ちや奈良時代の歴史・文化の体験環境の構築
- 歴史・文化の学習を通じた奈良全体への誘いの仕掛け構築
- 体験を通じて誰もが集える交流の舞台構築

表：平城宮跡歴史公園内各施設の主な機能

平城宮跡内施設	展示機能	体験機能	交流機能	飲食機能	物販機能	展望機能	集合機能	主な内容
平城宮跡資料館	●							発掘遺品展示
復原事業情報館	●							復原工事の紹介、展示
遺構展示館	●							建物跡の遺構の展示
平城宮跡展示館・公園管理センター (平城宮いざない館)	●	○ 木簡文書 づくり等			○			平城宮跡全体のガイダンス展示
休憩・宮跡展望施設 (天平みはらし館)		○ VR シアター				●		平城宮跡を一望できる展望デッキ
団体集合施設 (天平つどい館)							●	修学旅行など団体客対応の集合スペース
観光案内・物販施設 (天平みつき館)					●			奈良の特産品、お土産販売
飲食・交流施設 (天平うまし館)	○ 復原遺 唐使船	○ 復原遺 唐使船 乗船	○ イベント 広場	●				レストラン・カフェ
歴史体験学習館	○	●	●					歴史体験学習

※メイン機能：●、サブ機能：○

## (2) 基本的な考え方

### 1) 歴史体験学習館の基本テーマと役割

平城京は唐の都「長安城」等がモデルと言われており、当時の日本は国づくりのために中国の優れた文化等を取り入れて飛鳥古京から藤原京、平城京へと国づくりを行い『天平文化』を花開かせました。

歴史体験学習館では、「国際交流」を基本テーマとしながら天平文化が花開いた過程とともに、奈良の都・平城京を中心に栄えた華やかな天平文化について様々な体験や交流を通じて学ぶことを目的とします。

また、この体験を通じて当時の国際都市であった平城京が約1300年後に平城宮跡として世界遺産登録されていることの価値や、文化の発展には国際交流が大切であるという現代社会にも通じることへの気づきや理解につなげることを目指します。

### 2) 歴史体験学習館の定義

本施設の主たる機能である「体験」と「交流」を以下のように定義します。

#### 歴史体験学習館で行う「体験」とは

本施設で行う「体験」とは、国際交流が平城遷都や天平文化の発展につながった歴史や文化を楽しく体感し、学習する活動とします。

#### 歴史体験学習館で行う「交流」とは

本施設で行う「交流」とは、施設に集う人同士が歴史や文化の理解を楽しく共有し、学習する活動とします。

### 3) 体験・交流テーマ

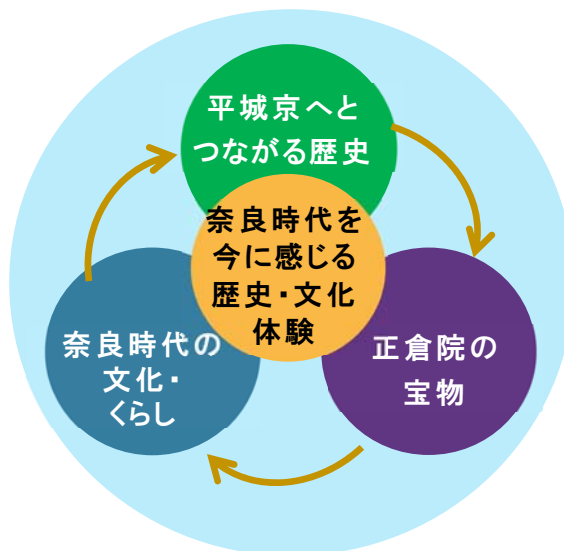
整備コンセプトを具現化していくため、当時の国際交流により華やかであった時代の賜物である『天平文化』から、以下に示す要素をひも解き、3つの柱として設定します。

天平文化

- 国際色豊かな**天平文化**が花開くこととなった歴史的過程：「史実」
- 天平文化**に大きな影響を与えたといわれる唐及び西域より舶載し、正倉院正倉に保管されて現在に伝わる正倉院宝物：「宝物」
- 天平文化**が花開いた当時の人々の生活様式（暮らしぶり）を物語る考古文献や発掘調査成果：「文献・遺構・遺物」

図：天平文化をひも解く3つの要素

- “史実”から読み解く「国際交流」を通じ発展した天平文化
  - 柱①：【平城京へとつながる歴史】
- “宝物”から読み解く国際色豊かな天平文化
  - 柱②：【正倉院の宝物】
- “文献”“遺構・遺物”から読み解く天平文化が花開いた
  - 柱③：【奈良時代の文化・暮らし】



図：3つの柱で構成する体験・交流テーマ

#### 4) 各テーマから想定される体験・交流内容

歴史体験学習館では、体験・交流テーマである3つの柱を核としながら、AI (Artificial Intelligence) や IoT (Internet of Things)、ICT (Information and Communication Technology) 等の新技術を活用した体験・交流内容を検討します。

さらに、歴史や文化への理解が深まるよう、体験・交流のためのイベントを実施します。

柱① 平城京へと つながる歴史	柱② 正倉院の宝物	柱③ 奈良時代の 文化・暮らし
<p>【コンセプト】</p> <p>国際交流を通じてどのように天平文化の発展につながったのかを学習</p> <p>【体験内容】</p> <p>「国際交流」や「天平文化」に着目し、飛鳥～奈良時代の重要な出来事をVR (Virtual Reality) やMR (Mixed Reality) 技術を用いて体験</p>	<p>【コンセプト】</p> <p>宝物の美しさ、国際性豊かな文化に触れて華やかな天平文化を学習</p> <p>【体験内容】</p> <p>正倉院の宝物のレプリカを実際に見て触れて、往時の国際交流のスケールを体験</p>	<p>【コンセプト】</p> <p>国際交流豊かな奈良時代の宮廷行事や、人々の文化・くらしぶりを学習</p> <p>【体験内容】</p> <p>古事記、日本書紀などの文献、考古資料、木簡などから読み解けるその時代の人々のくらしを体験</p>

図：歴史体験学習館における体験・交流内容の一例

### (3) 施設の計画概要

#### 1) 施設規模

公園基本計画に基づき拠点ゾーンの東側地区に整備する施設の規模は次のとおりです。

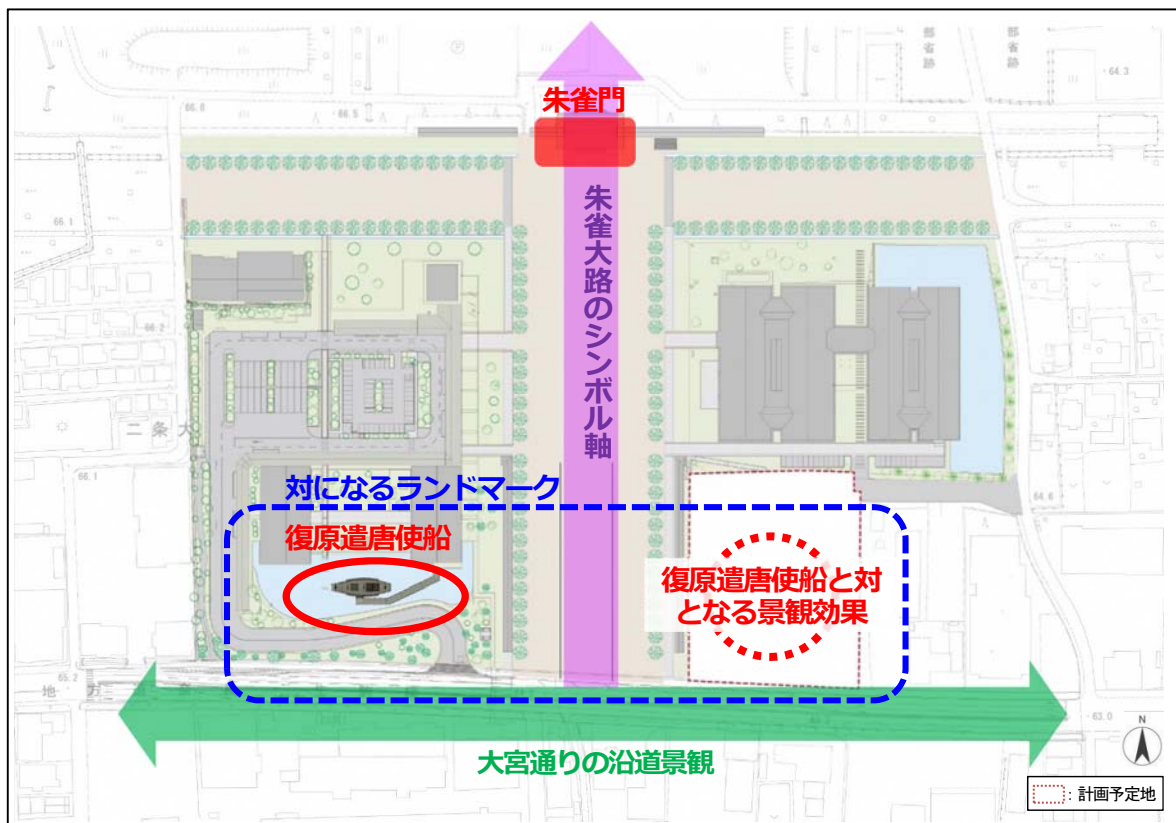
歴史体験学習館の施設規模 約3,000㎡

#### 2) 施設配置の考え方

拠点ゾーン整備計画の考え方をふまえるとともに、拠点ゾーン全体での統一感や連動性を創出するために、施設配置の考え方を以下のとおり整理します。

##### ①「朱雀門ひろば」全体を俯瞰し、「朱雀門ひろば」全体のバランスを重視

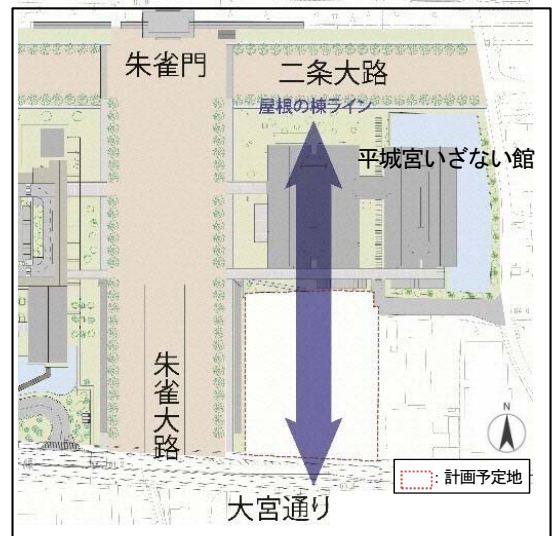
朱雀大路をシンボル軸とすることから、西側地区の復原遣唐使船と対になるランドマークとなる建物を東側地区においても大宮通りから見られやすいところに配置します。



図：拠点ゾーン全体施設配置図

## ② 朱雀大路をシンボル軸とし、南北方向を意識した施設配置

計画予定地の北側に位置する「平城宮いざない館」(国整備区域)は、朱雀大路をシンボル軸とし、南北方向を意識して配置されていることから、本施設は「平城宮いざない館」の中心線にあわせた施設配置とします。



図：平城宮いざない館との中心軸あわせ

## ③ 往時の条坊道路の見通しを確保した施設配置

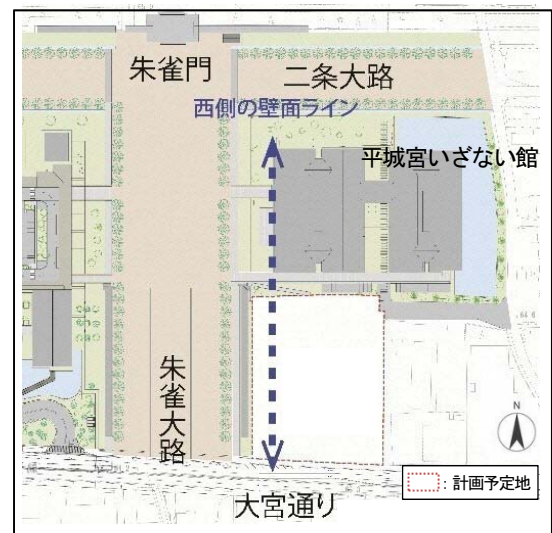
往時の条坊道路（奈良時代の道路）として、東一坊坊間西小路の見通しを確保し、効果的な遺構表示や案内の充実に努め、“平城京のかたち（都市計画）”が感じられる空間とします。



図：条坊道路の見通し確保

## ④ 朱雀大路から建物を控えた施設配置

「平城宮いざない館」(国整備区域)の西側壁面線と本施設の西側壁面線をあわせ、朱雀大路から壁面を後退させた施設配置とします。

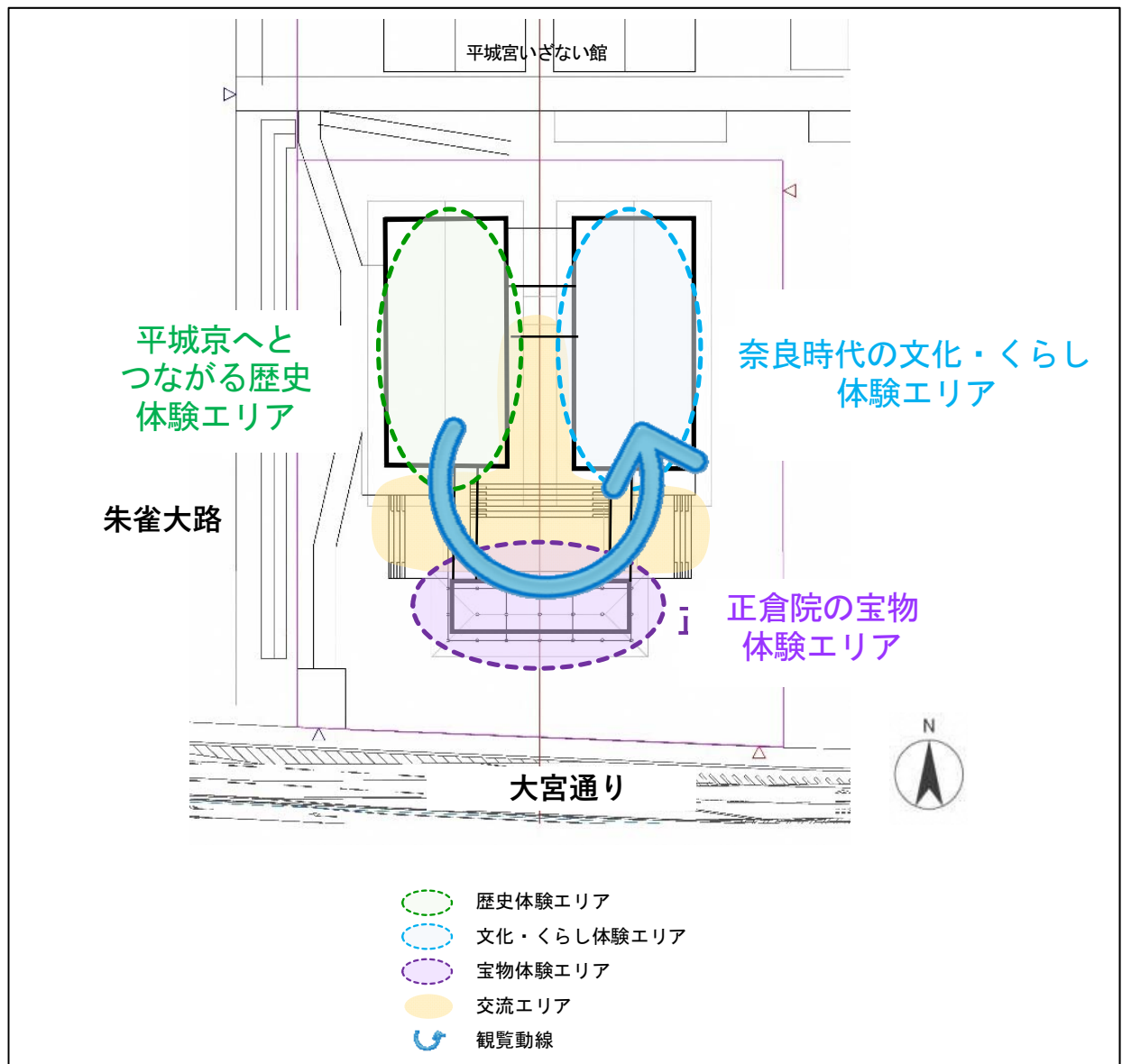


図：平城宮いざない館との壁面あわせ

### 3) 施設配置計画

前項の拠点ゾーン全体における施設配置の考え方をふまえ、歴史体験学習館の施設配置計画の考え方を以下のとおり示します。

- 3つのテーマがあることから、テーマごとに3棟の建物を配置します。
- 3つの体験・交流テーマを1つの順路で体験できる配置にします。
- 交流エリアを中心として、3つのテーマの建物が取り囲むような配置にします。
- 東側地区のランドマークとなる建物を大宮通り側に配置します。
- 交流エリアに人が集いやすくなるよう、どの建物からも視線を集める配置にします。



図：建物の配置と体験・交流テーマの関係図

## (4) 景観形成の考え方

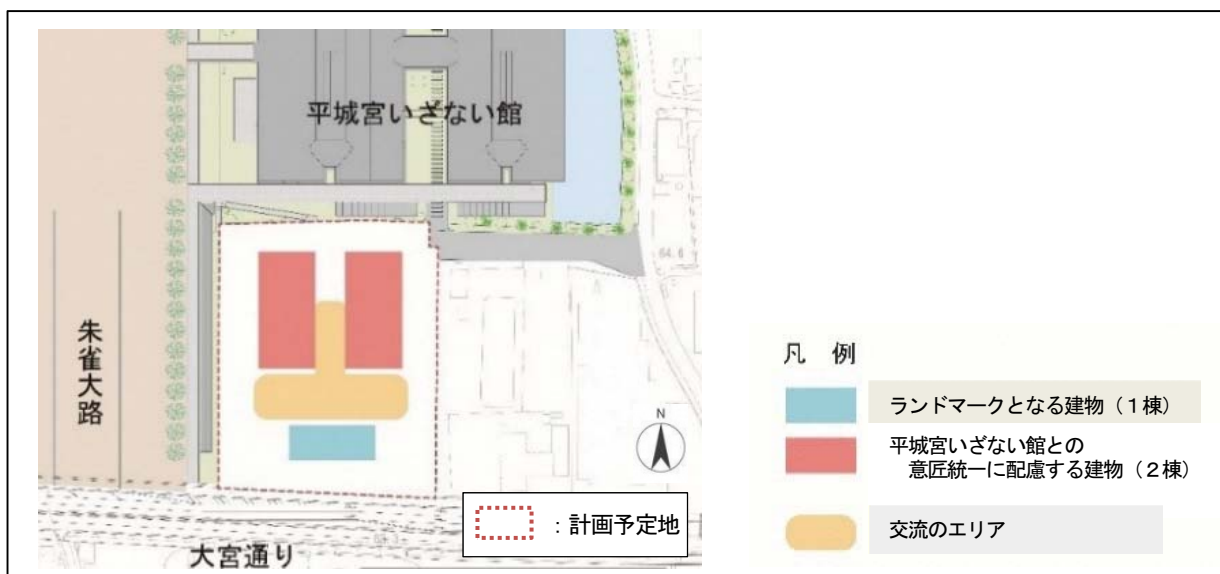
### 1) 建物規模の考え方について

各建物の規模は、国指定特別史跡内からの眺望や、世界遺産「古都奈良の文化財」の緩衝地帯の景観に影響が無いよう計画します。また、同世界遺産の歴史的環境調整区域として、現在の市街地景観から修景され、各建物の規模が平城宮跡の景観と調和するよう計画します。

### 2) 建築意匠の考え方について

「拠点ゾーン整備計画」の景観形成の考え方、基本方針、建築の具体的な配慮事項をふまえ、3棟の建築意匠の考え方を以下のとおり示します。

- 平城宮跡の正面玄関及び奈良観光の玄関口として、奈良時代への入口を意識した品格が感じられる建築意匠とします。
- “奈良時代を今に感じる”歴史・文化体験と交流の舞台として、外観も体験の一環となるよう、奈良時代を象徴する建物意匠とします。



図：施設配置図

### ○3棟のうち平城宮いざない館に隣接する建物：2棟

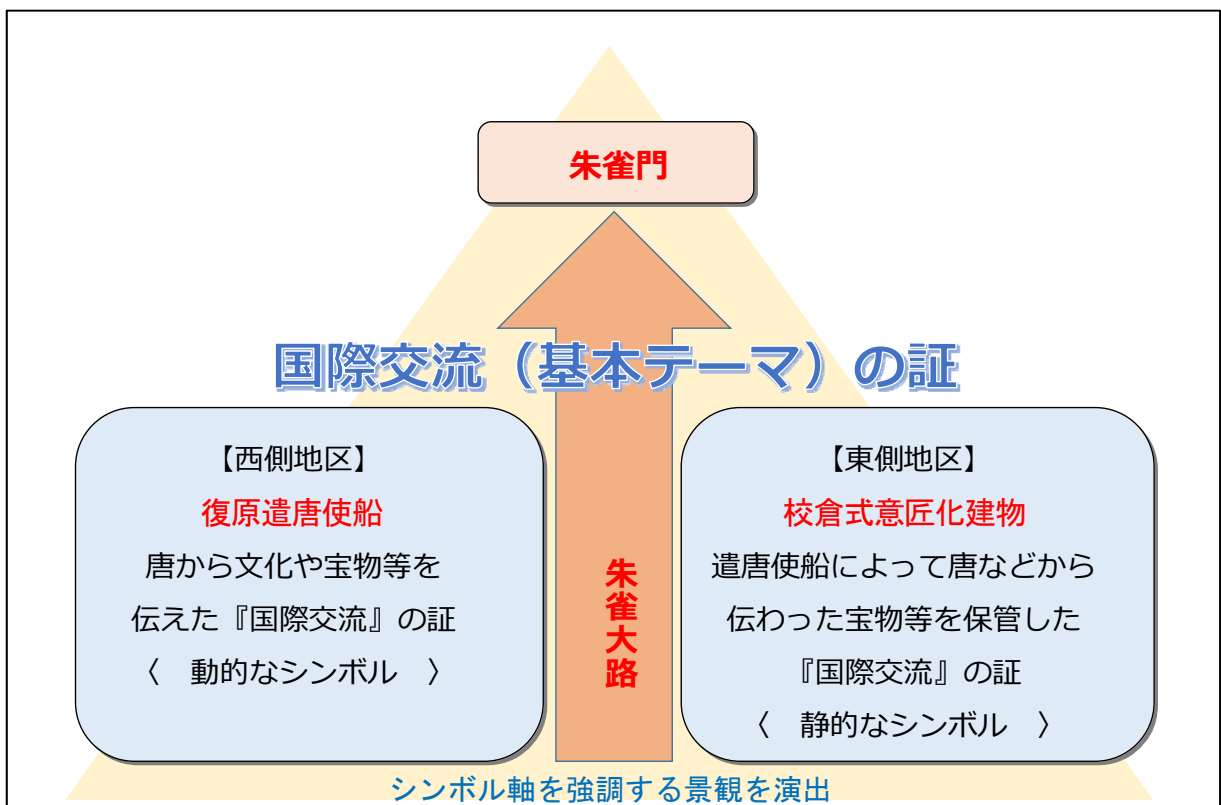
- ・ 3棟のうち平城宮いざない館に隣接する建物2棟については、隣接する平城宮いざない館（切妻造り）や全体と調和するよう、品格が感じられる建築意匠を計画します。

- ・ 平城宮いざない館と意匠を統一し、切妻造りとします。
- ・ 建物内外から交流のエリア、さらには公園全体へと人々のにぎわいが感じられるように、壁面にガラスを使用するなど、明るく入りやすい外観とします。

### ○3棟のうち大宮通り側に近い建物：1棟

- ・ 3棟のうち大宮通り側に近い建物1棟については、大宮通りに面するランドマークとなる建物として、奈良時代を象徴する建築意匠を計画します。

- ・ 訪れる人々が「正倉院の宝物」を体験・交流できる施設であることを一目で理解できる外観とします。
- ・ 西側地区の復原遣唐使船と対になる建物として、東側地区のランドマークとなる建物は、校倉式意匠化建物とし、多くの人々に分かりやすい正倉院正倉を基に意匠化します。



図：両ランドマークの位置付け



### 【平城京と校倉式の建物】

- 平城京は国づくりとしての律令体制が整った時代の都であり、国内外から物資や人、技術等が集まったことにより、国際色豊かな天平文化が花開いたと言われてしています。
- 天平文化に大きな影響を与えたと言われる国際交流で重要な役割を担ったのが遣唐使及び遣唐使船であり、大陸から伝わった文化や宝物、技術等は1300年を経た現在に伝えられています。（動的なシンボル）
- 律令制の整備によって、国内からの米や地方の特産品等の物資を集積し、保管管理する都市機能が必要となり、数多くの校倉式の倉庫が平城宮に設置されていたと言われてしています。
- 遣唐使船によって伝えられた宝物を1300年後の現在まで伝えてきた建造物の典型が正倉院正倉であり、遣唐使船との関連性も強く国際交流を象徴する建物として現存しています。（静的なシンボル）

### 3) 建築意匠に関する具体的な配慮事項について

---

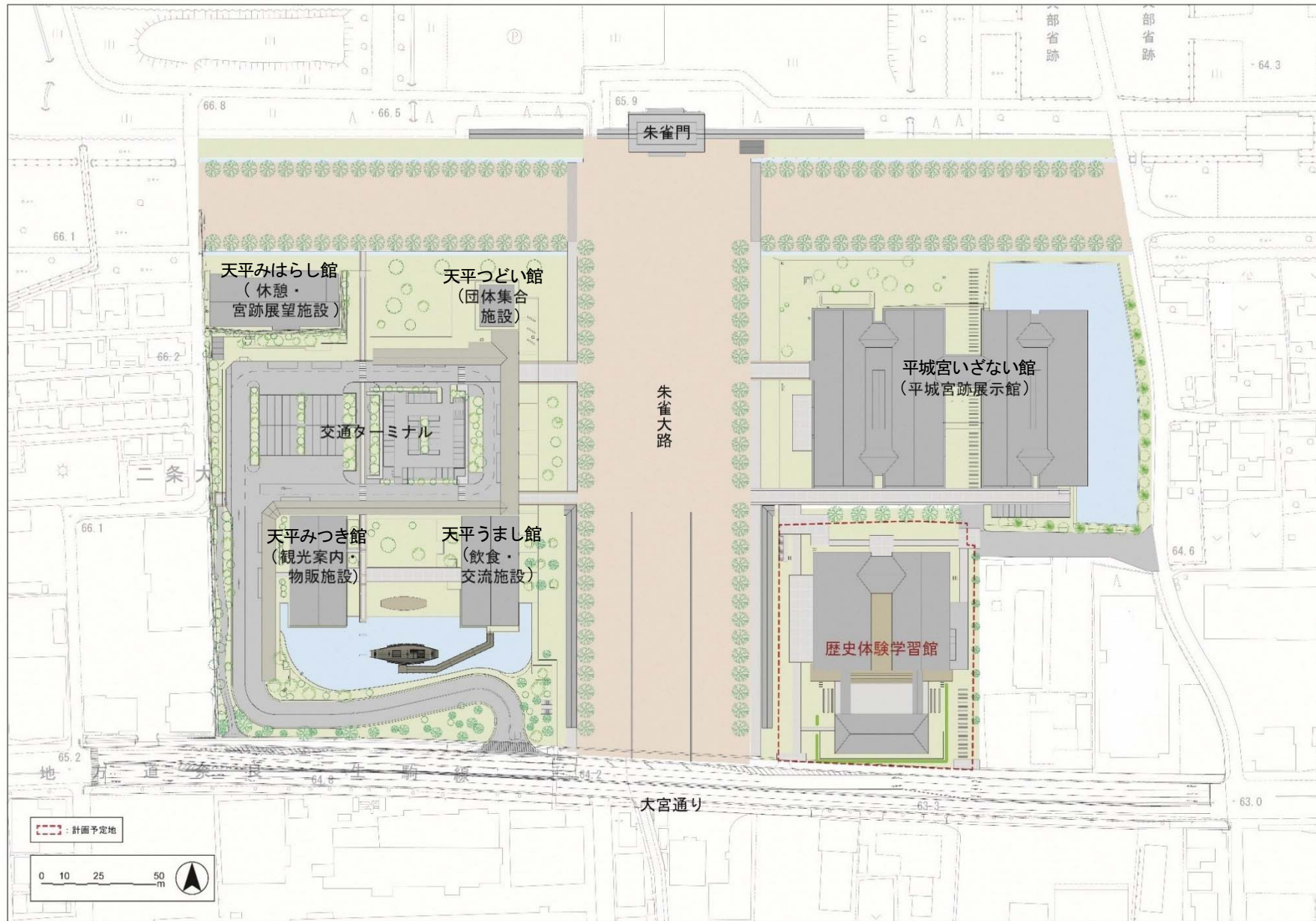
平城宮跡内の復原建造物への影響の検証及び現行法規制等をふまえ、大宮通りの沿道景観等にも配慮し、歴史体験学習館の具体的な外観・構造・素材等を検討します。

### (5) 埋蔵文化財の保護

---

計画地は史跡「平城京朱雀大路跡」に面する位置であることから、世界遺産「古都奈良の文化財」構成資産「平城宮跡」の顕著な普遍的な価値に関連する遺構が存在する可能性があります。埋蔵文化財への影響は事前に確認し、その結果重要遺構が検出された場合は保護措置を実施します。

(6) 平面計画



(7) 整備イメージ



## (8) スケジュール、概算事業費

---

歴史体験学習館の整備スケジュールと概算事業費は、以下に示すとおりです。

### 1) 整備スケジュール

---

- |           |             |
|-----------|-------------|
| ・平成30年    | 整備計画 検討     |
| ・令和 2年10月 | パブリックコメント実施 |
| ・令和 2年12月 | 整備計画 策定     |
| ・令和 3年度   | 基本設計        |
| ・令和 4年度   | 詳細設計        |
| ・令和 5年度以降 | 整備工事        |

※なお、今後の発掘調査等の状況により、計画は一部変更になる場合があります。

### 2) 概算事業費

---

歴史体験学習館の施設建設の概算事業費は、以下に示すとおりです。  
なお、施設運営費や維持管理費等については、コスト縮減に配慮して計画します。

約27億円程度